

第9期(2014年3月期)決算説明会

2014年5月29日



I. 決算のポイント、主なトピックス	3	~	4
II. マーケットの動向	6	~	8
III. 第9期(2014年3月期)決算概要(連結)	10	~	13
IV. 経営概況	15	~	20

I . 決算のポイント、主なトピックス

1. 決算のポイント

- ・2014年3月期は、マーケットが若干の増加となる中で、当社は大幅な増収増益となった。
 - (1)売上高は前期対比25.2%の増収、営業利益は107.1%の増益となった。
 - (2)コンクリートパイルは23.1%、鋼管杭は61.7%、場所打ち杭は27.1%それぞれ前期対比増収となった。
 - (3)当社のコンクリートパイルの完エシェアは前期対比1.8ポイントアップした。
- ・2013年12月にPhan Vu社(ベトナム)を連結子会社化した。

計画を上回る大幅な増収・増益となった。

2. 主なトピックス

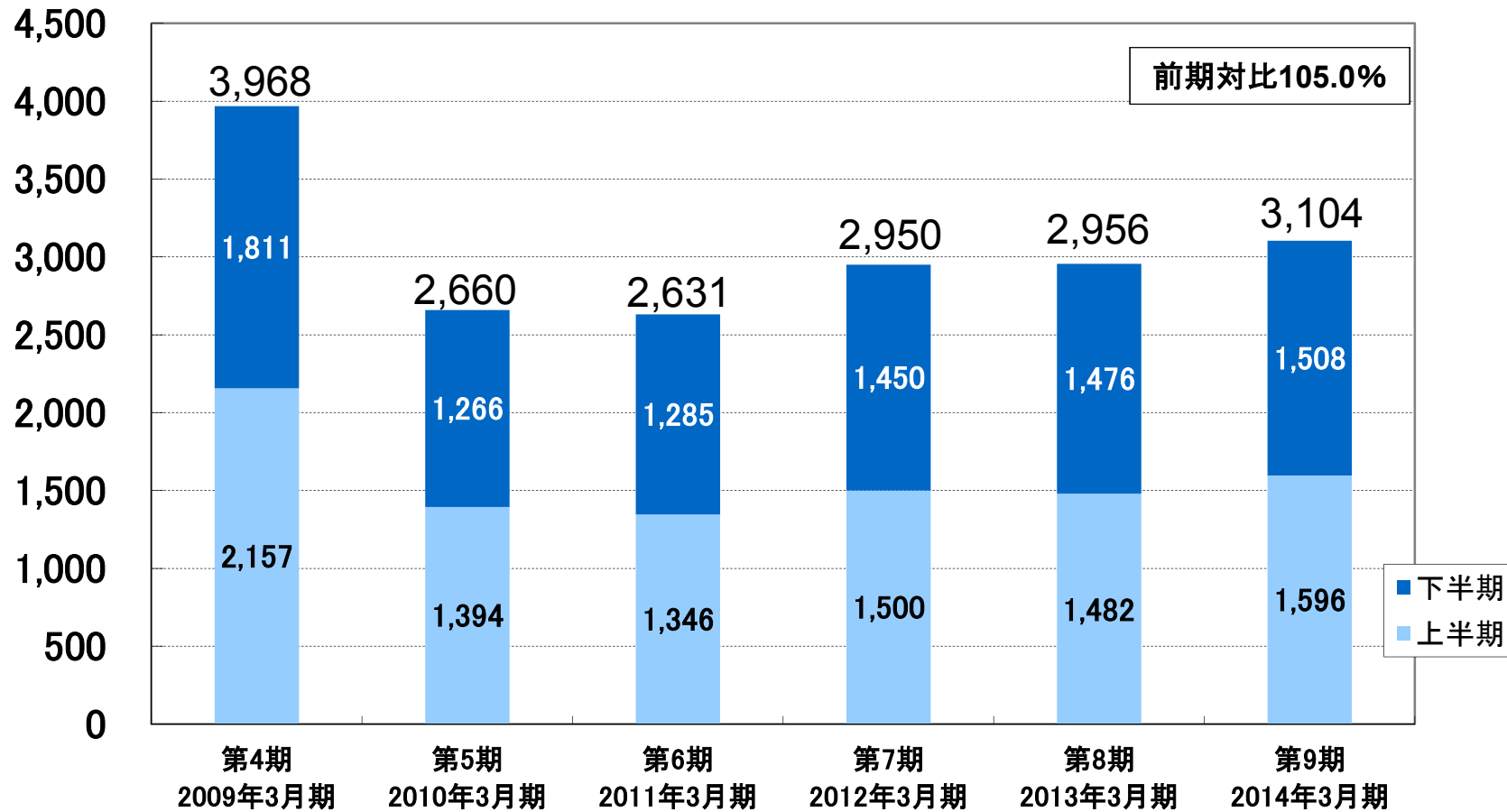
- 2013年7月 業績予想を上方修正するとともに、中間配当(5円)の実施予定を発表した。
- 2013年10月 ・ジャパンパイル基礎株式会社を基礎工業株式会社に吸収合併にて、
ジャパンパイル基礎工業株式会社とし、施工能力の向上を図る。
・Phan Vu社(ベトナム)に、2.7億円の追加出資を行った。
- 2013年11月 ・第2回の公募増資及び自己株式の処分並びに株式売出しを発表した。
・業績予想を上方修正するとともに、年間配当金額を12円に引き上げた。
・九州にて新工場の建設用地の取得を発表した。
- 2013年12月 Phan Vu社(ベトナム)の出資比率を、52.4%に引き上げ、連結子会社化した。
- 2014年 2月 ミャンマーのV-Pile社とPhan Vu社(ベトナム)と当社の三社でミャンマー国内における相互協力に関する覚書を締結した。
- 2014年 3月 三誠グループに対する出資を行った。

Ⅱ. マーケットの動向

3. 全国コンクリートパイロ出荷量

コンクリートポール・パイロ協会資料

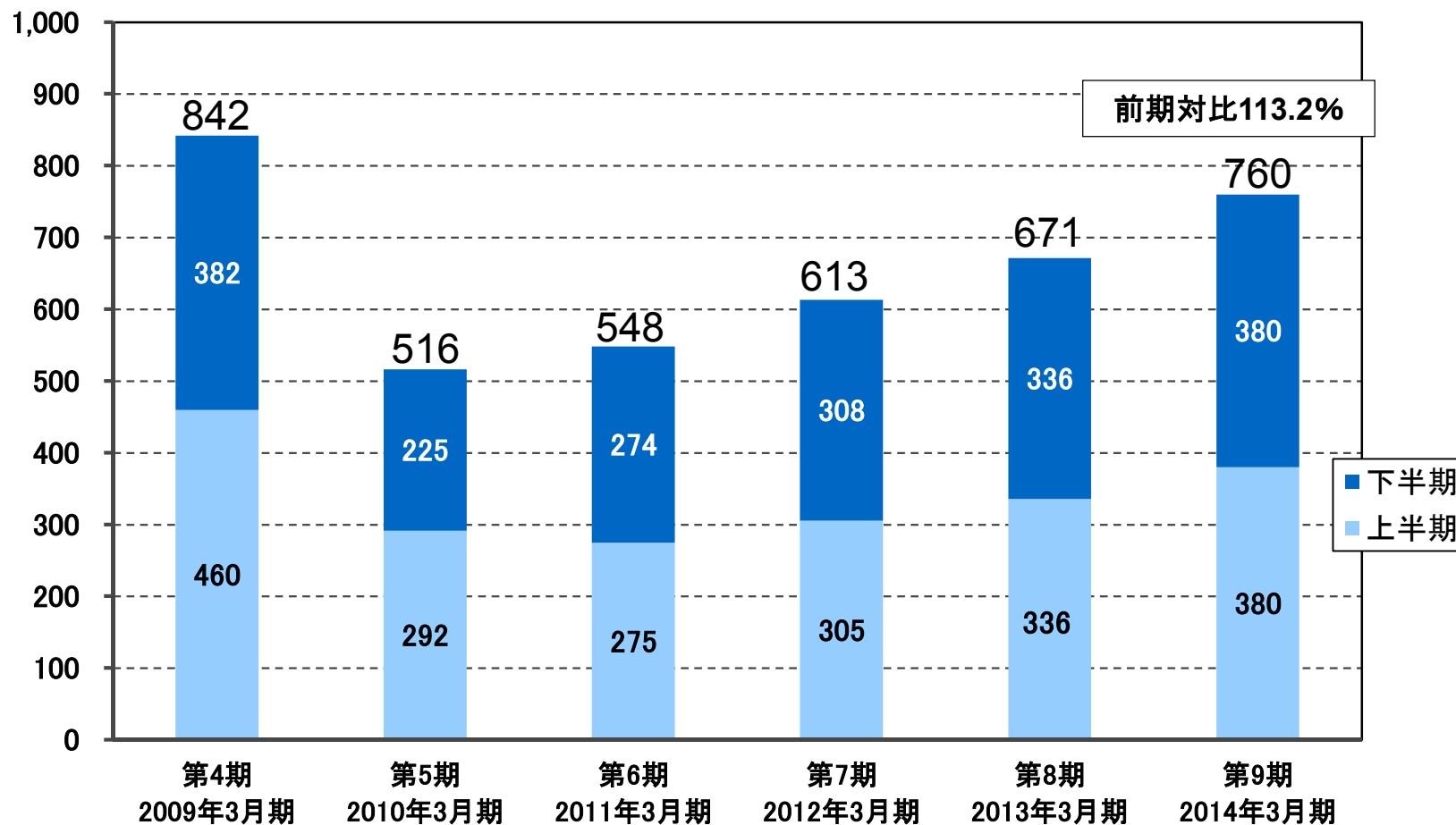
(単位:千トン)



コンクリートパイロの出荷は、若干の増加となった。

4. 当社のコンクリートパイプ完工量

(単位:千トン)



当社の完工量は、前年対比13.2%増加した。

5. コンクリートパイルのシェア

コンクリートポール・パイル協会資料

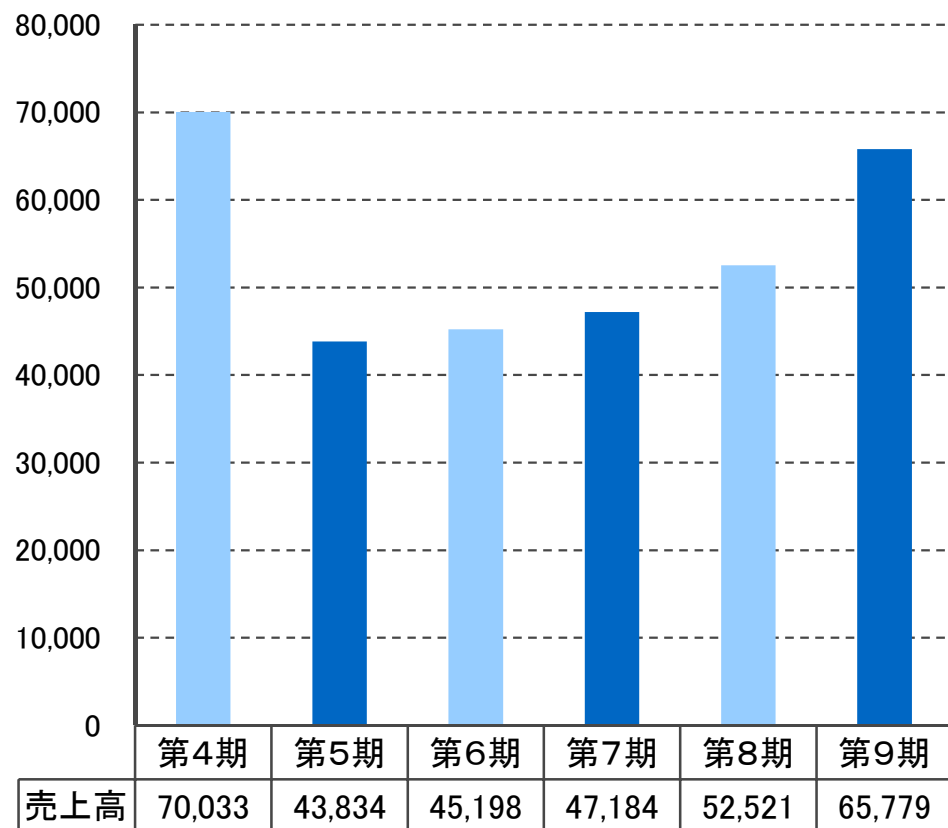
		第4期 2009年3月期	第5期 2010年3月期	第6期 2011年3月期	第7期 2012年3月期	第8期 2013年3月期	第9期 2014年3月期
ジャパンパイル	出荷量(t)	779,308	439,231	498,000	546,784	639,806	710,708
	シェア	19.6%	16.5%	18.9%	18.5%	21.6%	22.9%
	完工量(t)	841,910	516,301	548,030	613,124	671,474	760,254
	シェア	21.2%	19.4%	20.8%	20.8%	22.7%	24.5%
三谷セキサン	出荷量(t)	779,435	590,959	582,583	747,655	686,894	757,701
	シェア	19.6%	22.2%	22.1%	25.3%	23.2%	24.4%
日本コンクリート工業	出荷量(t)	448,922	268,253	231,029	276,141	270,303	241,770
	シェア	11.3%	10.1%	8.8%	9.4%	9.1%	7.8%
日本ヒューム	出荷量(t)	351,674	220,663	211,968	250,656	222,848	269,879
	シェア	8.9%	8.3%	8.1%	8.5%	7.7%	8.7%
トーヨーアサノ	出荷量(t)	211,026	148,569	166,534	200,575	175,784	195,838
	シェア	5.3%	5.6%	6.3%	6.8%	5.9%	6.3%
上位5社計	出荷量(t)	2,570,365	1,667,675	1,690,114	2,021,811	1,995,635	2,175,896
	シェア	64.8%	62.7%	64.2%	68.5%	67.5%	70.1%
総出荷量	出荷量(t)	3,967,780	2,660,245	2,631,261	2,950,442	2,956,302	3,104,308

Ⅲ. 第9期(2014年3月期) 決算概要(連結)

7. 連結売上高・営業利益の推移

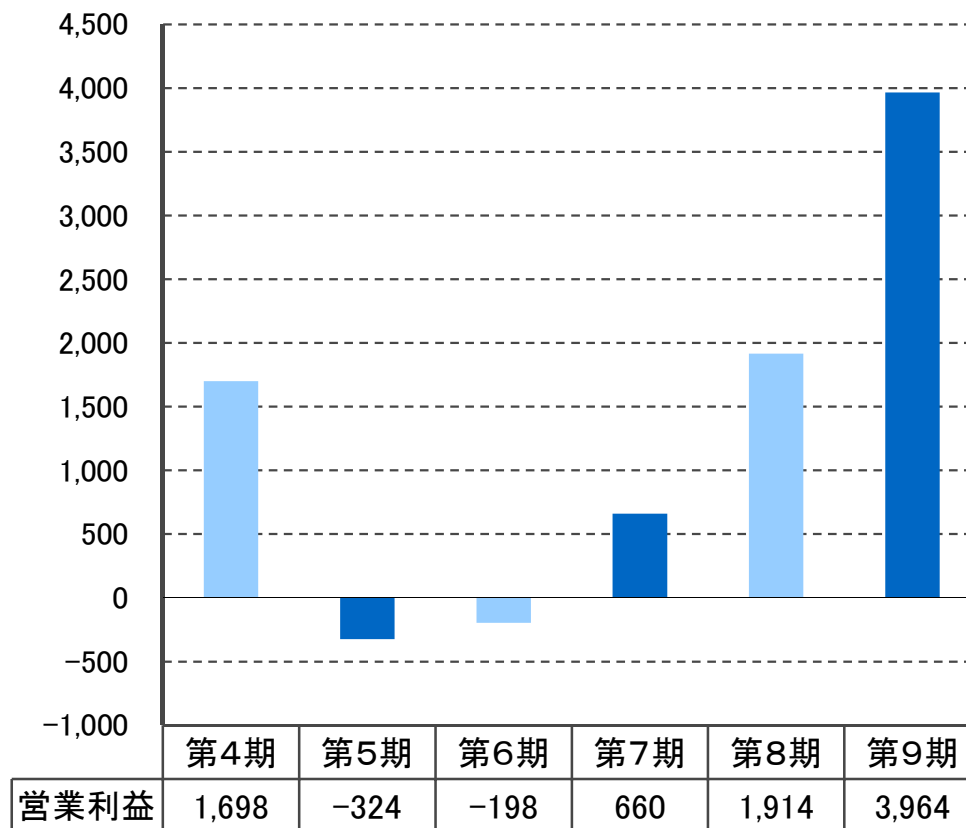
売上高

(単位:百万円)



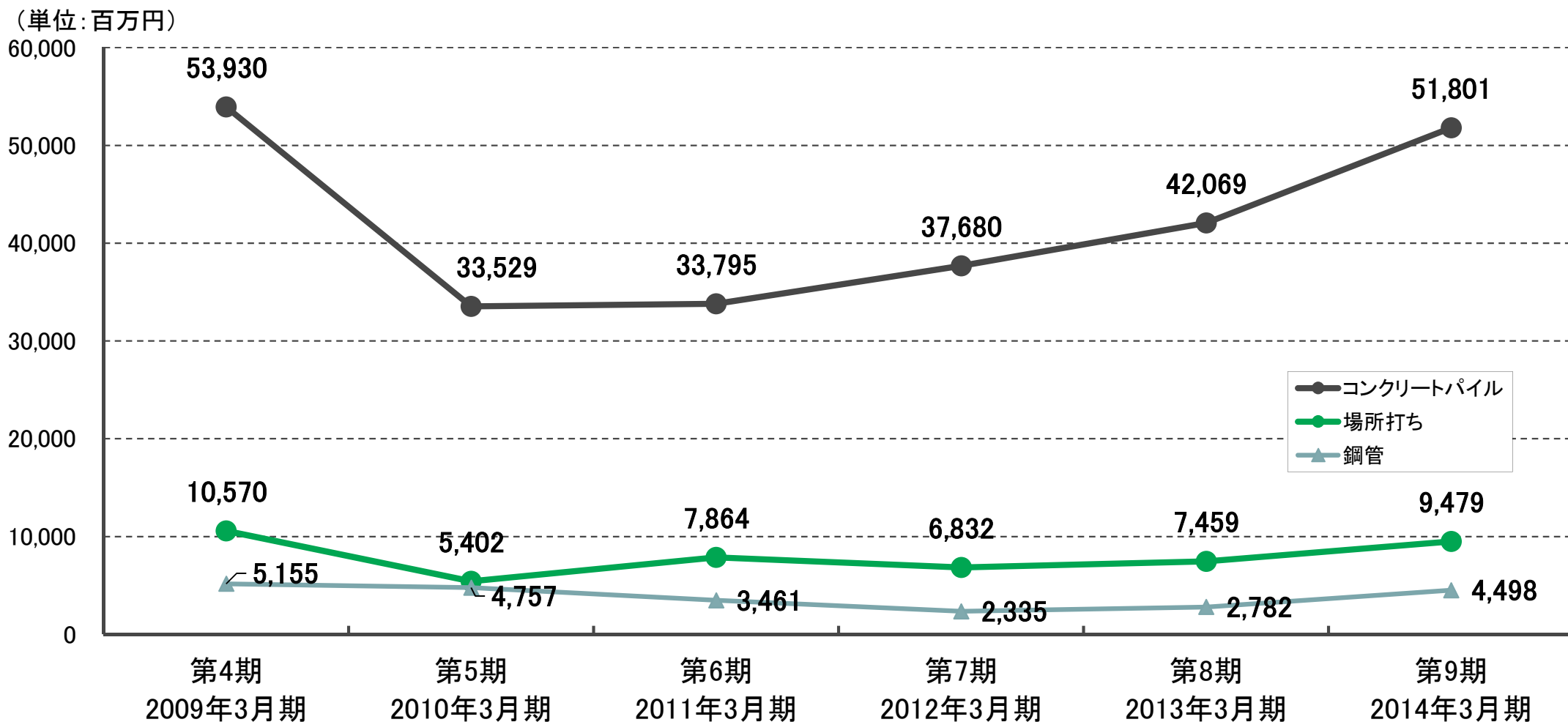
営業利益

(単位:百万円)



売上高は前期対比25.2%増加、営業利益は倍増し過去最高益に。

8. 部門別 売上高の推移



全部門とも増収となった。

9. 比較連結損益計算書

(単位:百万円)	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
売上高	70,033	43,834	45,198	47,184	52,521	65,779	67,000
売上原価	60,248	37,925	39,598	40,269	44,422	55,010	—
売上総利益	9,785	5,909	5,599	6,914	8,099	10,768	—
(売上総利益率)	(14.0%)	(13.5%)	(12.4%)	(14.7%)	(15.4%)	(16.4%)	—
販売費及び一般管理費	8,087	6,233	5,798	6,253	6,185	6,803	—
営業利益	1,698	△ 324	△ 198	660	1,914	3,964	3,850
営業外収益	532	618	474	528	503	570	—
営業外費用	181	254	229	225	251	295	—
経常利益	2,049	39	45	963	2,167	4,239	3,850
特別利益	104	360	155	12	119	50	—
特別損失	940	889	2,439	169	87	76	—
税金等調整前純利益	1,214	△ 488	△ 2,238	806	2,198	4,213	—
法人税等合計	889	21	△ 51	△ 542	163	1,511	—
少数株主利益	△ 10	△ 12	14	38	24	40	—
当期純利益	335	△ 498	△ 2,201	1,309	2,011	2,661	2,450

10. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期
税金等調整前当期純利益	1,214	△ 488	△ 2,238	806	2,198	4,213
減価償却費	1,525	1,551	1,334	947	897	1,068
売上債権の増減 (△は増加額)	△34	7,462	△ 2,190	△ 1,014	△ 2,106	△2,276
たな卸資産の増減 (△は増加額)	1,823	1,486	△ 822	290	△ 1,471	548
仕入債務等の増減 (△は減少額)	△523	△ 6,351	3,097	103	3,533	1,317
その他	736	△ 2,301	1,378	486	△ 89	△359
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,743	1,358	558	1,618	2,963	4,511
有形固定資産の増減	△1,641	△ 1,523	△ 246	△ 67	△ 131	△1,214
投資有価証券の取得	△ 181	△ 110	△ 150	△ 480	△ 625	△135
その他	103	30	△ 169	△ 32	44	△95
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,719	△ 1,603	△ 565	△ 579	△ 712	△1,445
借入金・社債の増減	1,271	216	△ 315	△ 120	△ 2,280	△1,995
配当金の支払	△312	△ 312	△ 208	△ 127	△ 203	△435
株式発行による収入	—	—	—	—	1,096	4,184
その他	△74	△ 210	△ 397	△ 355	△ 467	271
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	882	△ 306	△ 921	△ 602	△ 1,854	2,025
IV. 現金及び現金同等物の期末残高	7,109	6,557	5,630	6,067	6,463	11,564

IV. 經營概況

11. 経営概況

1. 前期業績大幅向上の要因

(1) 景気の状態が良好

(2) 総合基礎建設業の定着化

11. 経営概況

2. 前期の特徴

(1) 日本の建設業界の物理的工事能力の限界が見えた

(2) 建設価格が大幅に値上がりした

11. 経営概況

3. 当社にとっての前期

(1) 大型工事の増加 … スーパーゼネコンとの取引増加

(2) 海外事業で大きな進展

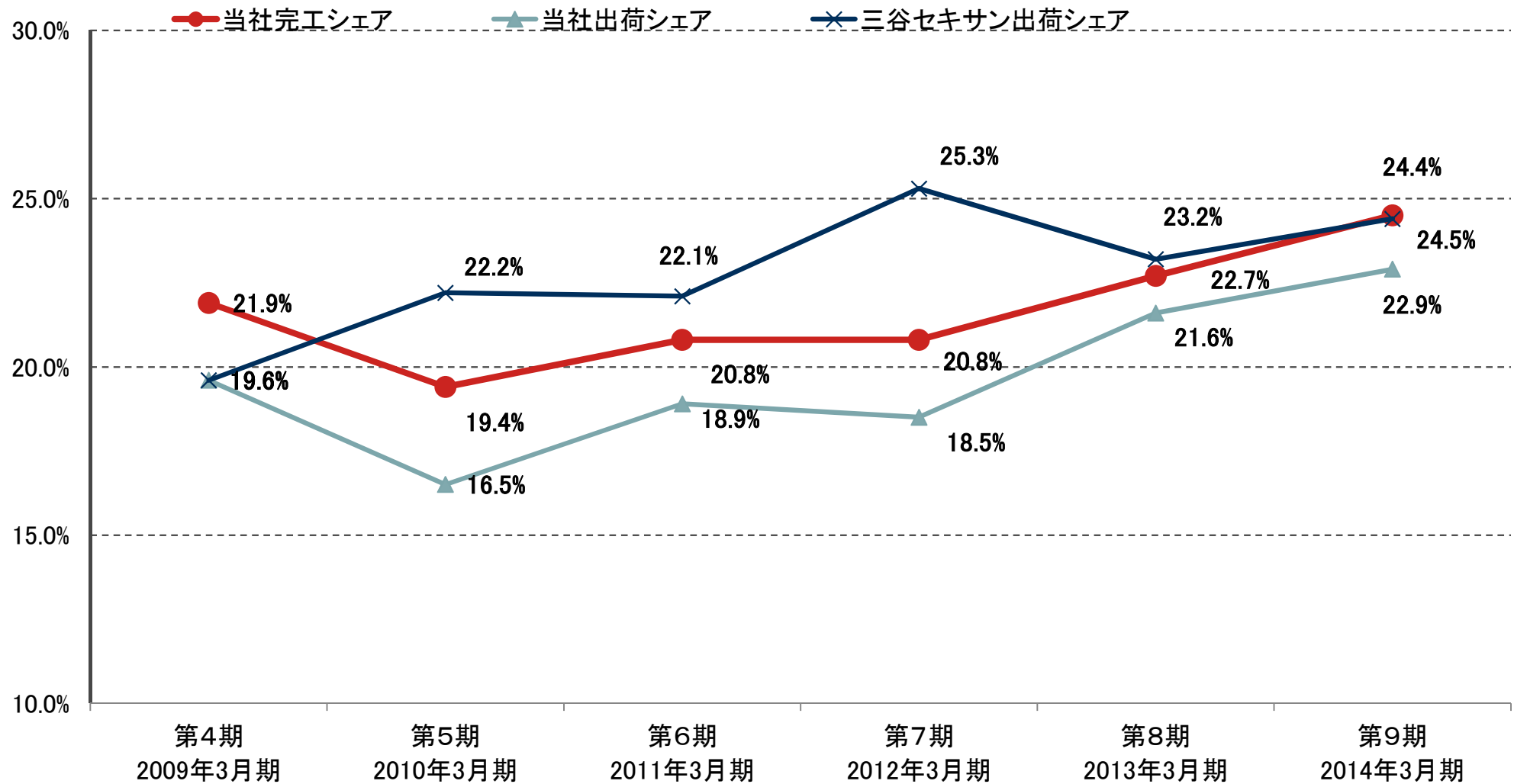
(3) 増資による投資資金の確保

11. 経営概況

4. 今期の考え方

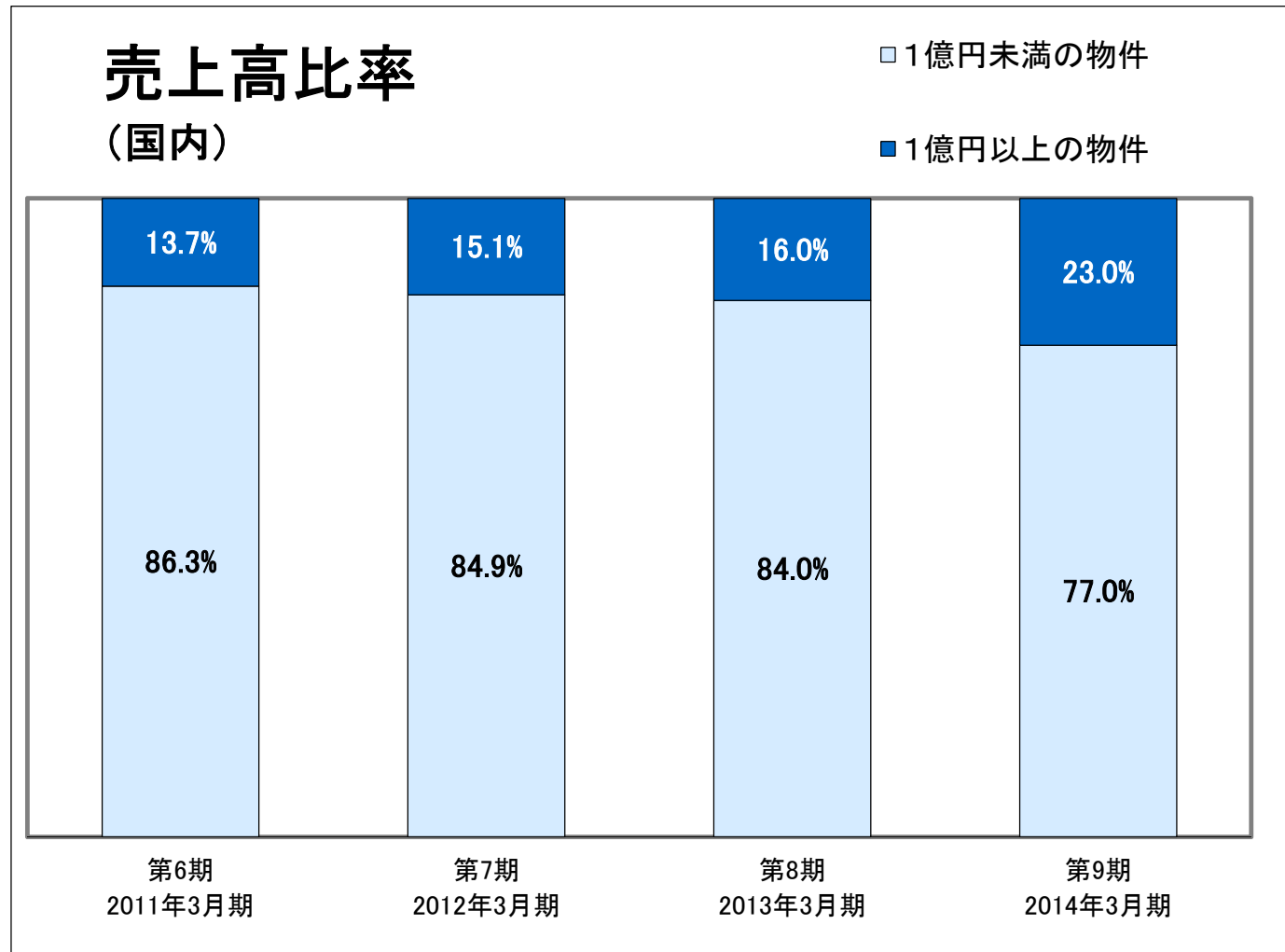
- (1) 業務環境は悪くない
- (2) ゼネコンの着工増加は夏以降
- (3) 工事量は物理的限界に左右される
- (4) 海外事業は順調に伸びる
- (5) 新5カ年計画
- (6) 今年度の位置づけ

コンクリートパイプシェアの推移(国内)



完工シェアは1.8%上昇した。

売上規模別の売上高比率



1億円以上の大型物件が増加した。